

日本社会で活躍する
中国人の情報を発信したい

日本で活躍する中国人

ゲスト／段躍中（日本僑報出版社・編集長）

には古くからある華僑の団体なども



張国清
(ちょう・こくせい チャン・グオチン)
1951年8月生まれ。75年12月吉林大学日本語学科卒業。
同年中国国際放送局(北京放送)入社。87年10月日本上
智大学新聞学部研修。92年7月同局記者として日本勤務、
96年5月同局日本語部部長、05年5月同局日本支局長に
就任

現できなかつた
と思います。ま
た、日本の国際
化がすすみ、外
国人が活躍でき
る環境ができて
いたこと、中国
の改革開放がす
すみ、海外に出

る本屋さんも少ないのです
集出版した本はあまり売れて
のですが、とてもいい本が多い
私の出版した本を多くの方に読
いただければ、日中相方に役立
信じています。

張　中国人が書いた本、中國人
た日本、こういう本を読めば、
人が日本をどうとらえているか
かりますね。

日中両国に向けて日中両カ国語で発信したいと考えてきました。

張 出版した本の中で、とくに印象に残った本はありますか。

段 結構ありますが、1冊目の「在日中國人大全」は私の出発点で、情

段 この9月現在で1220冊になります。平均すると年に10冊以上です。ただ、96年から98年まではほとんど月刊誌で、書籍を出版するようになつたのは「在日中國人大全」を刊行してからですね。実質7年間で120冊ということになります。私はずっと、日中相互理解を深めるために、

張 これまで、本を何冊くらい出版されましたか。

日外国人のマイナス面ばかり報道しているような気がしていたからです。

95年の4月で、当時は文学院に在籍していました。もともとジャーナリストだったので、中国人の新聞、出版活動を研究対象に選んだの

張 私は今年5月末に日本に来たのですが、いろいろな方から段さんの活躍ぶりを聞いて敬服しています。段さんは、日中両国語の月刊誌「日本僑報」を出版されていますが、創刊したのはいつですか。

段躍中 日本僑報出版社編集長 中
国青年報の記者だった91年、大学院の研究生として北京から日本に留学しました。約9年間の努力が実つて、00年2月に新潟大学大学院の博士課程を修了し、念願の博士号を取得しました。

段さんは91年に来日した元「中国全」で一躍注目され、現在は日本的な課題について積極的に提言をなすが来日されたのはいつですか。

張 レイアウトなども段さんが自分でやつたそうですね。

には古くからある華僑の団体なども載せ、新華僑にとつての情報源になるよう努めました。



段躍中
(だん・やくちゅう ドゥアン・ユエヂョン)
1958年、中国湖南省生まれ。「中国青年報」記者を経て91年に来日。95年、新潟大学大学院現代社会文化研究科に入学。99年、日本儒報出版社を設立。現在までに「在日中國人大全」ほか、日中交流関連の書籍を120冊発行。日中交流研究所・所長

年後 知い扱書が新聞の扱書欄に掲載されました。これが大きな励みになりました。内容は「外国人の明るい面も報道してほしい」という

放送を聞いていました。家に帰つても、電気をつける前にまずラジオのスイッチを入れて、それから着替えました。また、日本語の文章を書く訓練を徹底的にやりました。そうした努力をつづけた結果、来日してか

かってですね、中国語で編集するのなら自信はあるのですが、私は日本に来てから日本語の勉強をはじめたので、日本語力が不足していると痛感していました。そこで、独自の勉強方法を考えました。例えば通勤通学するときは、ずっと日本のラジオ

ために独学で、試行錯誤しながらやりました。

張 レイアウトなども段さんが自分でやつたそうですね。

には古くからある華僑の団体なども載せ、新華僑にとつての情報源になるよう努めました。